



平成 19 年 2 月 2 日

各 位

会 社 名 株式会社オーエー・システム・プラザ
 代 表 者 代表取締役社長 大 喜 章 徳
 (J A S D A Q ・ コード 7 4 9 1)
 問い合わせ先 取締役(財務担当) 加 納 順 一
 電 話 番 号 0 5 2 - 2 6 3 - 8 6 5 0

平成 19 年 3 月期通期 (連結・個別) の業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 3 月期 (平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日) の業績予想について、平成 18 年 11 月 15 日付当社「平成 19 年 3 月期中間決算短信 (連結)」及び同日付当社「平成 19 年 3 月期個別中間財務諸表の概要」にて発表しました業績予想を下記のとおり修正致します。

記

1. 平成 19 年 3 月期の業績予想の修正

(連結)

(単位：百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	12,700	300	60
今回修正 (B)	12,700	70	△125
増減額 (B-A)	0	△230	△185
増減率	0.0%	△76.7%	—

(個別)

(単位：百万円)

	売 上 高	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	7,000	10	△110
今回修正 (B)	6,700	△130	△220
増減額 (B-A)	△300	△140	△110
増減率	△4.3%	—	—

(修正理由)

パソコン業界においては約 5 年ぶりとなるマイクロソフト社の新 OS 「WindowsVista」発売を見越した商品の買い控えがあり、また購入パターンは新規需要から買い替え需要に変化致しました。電子情報技術産業協会 (JEITA) によると、平成 18 年 10 月から 12 月の 3 ヶ月間の国内におけるパーソナルコンピュータの総出荷金額は、前年同期間比で 86% と非常に厳しい結果となりました。

こういった状況の中、PC 販売事業においては本来年間を通じて最需要期となるはずの年末商戦では苦戦を強いられ、平成 18 年 10 月から 12 月の 3 ヶ月間におけるパソコン本体の売上金額前年同期比 (既存店ベース) は 87% となりました。当社ではパソコン本体の売上が伸び悩む中、店頭における「月額会員制保守サービス」などのサービス部門を強化致しましたが、状況を打破することが出来ず売上高が前回予想を下回る見通しとなりました。

去る 1 月 30 日より発売が開始されたマイクロソフト社の新 OS 「WindowsVista」については、一定の買い替え需要が喚起されておりますが、通期における業績回復には至らないものと予想しており経常利益に関しては売上の絶対額減少に伴う利益の減少により経常損失が拡大する見通しです。当期純損失の主な要因としては前回発表のとおり PC DEPOT 宇和島店の店舗転貸損失によるものであります。

次に、IT・デジタルメディア・コンテンツ事業についてですが、全体としての売上高は当初の計画値と乖離無く堅調に推移するものの、販管費の増加により経常利益が減額になると予想しております。主要子会社毎に見ますと、次の通りです。

(株)ダイヤモンドエージェンシーの広告部門が外注コスト削減を目的としスタッフを増員したことにより、一時的に人件費が増加したため、経常利益が当初計画を下回っております。また、(株)パナッシュはシステム部門において大口契約が成立した結果、人件費等の販管費が契約に先行して若干増加しておりますが、売上高・経常利益についてはほぼ当初計画どおりに推移しております。最後に、(株)ディーアンドアール・インテグレイツは主要顧客であるマイクロソフト社の「WindowsVisa」の発表に伴う受注増により、売上高・経常利益ともに当初計画を上回っております。

(参考) 平成 18 年 3 月期 (実績)

(個別)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期 (4/1～3/31)	8,125	2	68

(注) 当社は、前連結会計年度において、連結子会社のみなし取得日を当社の決算日としているため、連結損益計算書を作成しておりません。

[注記事項]

業績予想数値につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上